

自己の確立をめざして模索を

前　文　上里　一郎

学生部長　上　里　一　郎

新入生諸君は、様々な思いをもって広島大学へ入学してきたことでしょう。その諸君へ次の二つの言葉、課題を贈りたい。

“学問の道は他無し。その放心を求むるのみ”

これは、学問の道はほかでもない。どこかへなくしてしまった自分の本心を探し求めるだけのことであるという意味です。これから諸君は、本学で数年間にわたり学生生活を送ることになりますが、そこでの大きな課題の一つは、“自分とは何か”、“自己の確立”にあるといえましょう。

自己の確立というのは、自分にとってなにが大切なのか、なにを意義ある仕事として選ぶかという、人生の基本的な姿勢と方向が、目標が定まることです。

諸君は、現在入学した学部・学科・専攻を選ぶ際に、何を手がかりに決定したのでしょうか。価値の多様化の時代といいながら、実は偏差値偏重の決定が目立ちます。このことは、どの大学でも、転学部、転学科、他大学受験（退学）で悩む学生の増加などで実証されています。

二十世紀最大の科学者といわれるフロイトは、法律を専攻するか医学を専攻するかで迷い、さらに医学を選んでからも神経病理学者から開業医へと転進して、その後、独創的で壮大な人間理解の体系を構築しました。彼がはじめて自己を確立したと確信できたのは40歳の頃なのです。

現在のような激しい受験競争の中で、高校時代に自己確立の問題と取り組むことは至難の業でしょう。多くの人は目をそらしてきたのです。

入学したものの、何をしていいのかわからないという学生がよく相談室に来談しますが、これは入学することが目的で、入学した学部・学科・専攻は仮の決定であったことを示しています。それでも気づいたことで、次の展開が期待できます。大学まで引き伸ばされた自己の確立のために、教官や学生との人間的な交流、課外活動、講義など

をとおして真剣に悩み、模索してほしいものです。そこに、大学の積極的な意味があります。

今一つの言葉は、“学は多きに在らず、要は之を精しゅうする在り”である。

これは学ぶことは様々の分野に首をつっこむことではなく、大事なことは一つの分野に精通していることであることを指摘しています。

これまで、諸君の先輩達の講義を受け持っていましたが、そこで感じたことは、安易へ流れる、単位を習得するが学問を理解したとは言えない、学問への好奇心の欠如などです。

諸君はこれから大学の教養課程で、多種多様な学問を学ぶことになりますが、科目を選択する際に主体的に本質的な選択をしてくれることを期待しています。安易な選択はそれに見合ひものしか与えてくれません。私達が習得し、自己のものとするには汗と努力が必要不可欠です。

このように多くの学問と出会うわけですが、その内には自分の関心を引くものが出でてくるはずです。そのようなものがでた時は、徹底的に取り組んでほしいものです。広島大学には1,600人の教官があり、全国有数の図書があります。これらは、活用すれば大変な資源ですが活用しなければ単なる物に過ぎません。

課外活動も一つのものに積極的に系統的に取り組んではじめて自分の物となり大成します。

“一芸に秀でる”と“あぶはちとらず”との分かれ目はごくささいなところにあるようです。

諸君の積極的な学生生活を期待したい。

学生部は、各学部と協力して諸君の学生生活が順調に送れるよう援助するためあります。課外活動、宿舎・下宿、大学会館、留学、健康管理、奨学金、アルバイトなどの業務を担当していますので遠慮せずに気軽に利用してほしい。